

# 街の風景に溶け込んで走る — チンチン電車（路面電車） —



晴れ着姿も目に付く熱田神宮前の初詣風景。1974（昭和49）年1月。この年の2月にはここを通る路線が廃止となり、3月には市電が全廃している。  
（撮影：田中義人）

1937（昭和12）年に開催された「汎太平洋平和博覧会」をきっかけに周辺部の民営の路面電車を合併して市内交通の一元化を実現し、路線網が整備された。最盛期には市内に100キロを超す営業路線を巡らせ、市民の足として活躍した市電だが、自動車交通の進展と地下鉄の拡大もあって1974（昭和49）年3月31日を限りに姿を消した。

## ■岡崎:ルーツは馬車鉄道

岡崎市電（名鉄岡崎市内線）は1899（明治32）年に官設鉄道（旧国鉄・現JR）の岡崎駅と市街地を結んだ岡崎馬車鉄道をルーツとする。1912（大正元）年に電化し、北の郊外へ鉄道線を伸ばしている。法的には岡崎駅前～岡崎井田間が軌道線であるが、鉄道線の拳母線の一部と福岡線を含め、大樹寺～福岡町間を「岡崎市内線」として一体化して運転していた。1962（昭和37）年6月16日に営業を終了した。



豊橋駅前電停を発車した「ほつトラム」（2009年撮影）

かつては全国各地の都市で、住民をはじめ通勤・通学の人々の生活の足を支えた交通機関であり、街の風景に溶け込んでいた路面電車。運転士や車掌が鳴らす鐘（ベル）の音から「チンチン電車」の名が付き、市営の電車・市内を走る電車ということで「市電」と呼ばれた路面電車。愛知県内には今も健在な豊橋をはじめ名古屋・岡崎・一宮（起）・豊川にも路面電車が走っていた。

## ■名古屋:日本で2番目の電車

名古屋駅と栄を結んで路面電車が走りだしたのは1888（明治31）年5月で、京都に次いで日本で2番目の電車であった。当初は民営であったが、1922（大正11）年に市営化されて名古屋市電となった。



康生町電停に止まる市内電車（1962年撮影）

## ■豊橋:街の風物詩、「ビール電車」と「おでんしゃ」

1925（大正14）年、豊橋駅前と東田（あずまだ）遊郭を結ぶ目的で建設されたのが豊橋市電の始まりである。その後、路線の変更や柳生橋支線の廃止があったが、1982（昭和57）年に運動公園線が開通。平成を迎えると架線のセンターポール化、駅前への乗り入れを実施。2008（平成20）年には低床式の連接車（T1000形・愛称:ほつトラム）を導入している。

夏の「ビール電車」、冬の「おでんしゃ」は街の風物詩となっている。

（藤井 建）